

フランス・パリ第6大学滞在記

岡山大学大学院自然科学研究科

藤岡 武仁, 岩谷 麻未

Report of short stay at Université Pierre et Marie Curie

Takehito Fujioka, Asami Iwatani

Graduate School of Natural Science and Technology, Okayama University

はじめに

私達兩名は、(独)日本学生支援機構(JASSO)の支援を受けて、かねて所属研究室(岡山大学大学院自然科学研究科機能分子化学専攻医用複合材料設計学研究室)と深い交流関係にある、パリ第6大学(Université Pierre et Marie Curie:UPMC)のフローレンス・バボノ(Florence Babonneau)教授の研究室, LCMCP(Laboratoire de Chimie de la Matière Condensée de Paris)に、2012年1月6日より3月2日まで約2ヶ月間滞在する機会を得ました。バボノ先生の研究室は実際にはパリ市エコール通に面したCollège de Franceの建物内にあります。

本稿はこの短期間の滞在中から、当時は学部生だった私たちが学び、感じた大変貴重な体験を報告します。

藤岡武仁

〒700-8530 岡山県岡山市北区津島中3丁目1番1号
TEL 086-251-8214
FAX 086-251-8263
E-mail: en 19760@s.okayama-u.ac.jp

岩谷麻未

〒700-8530 岡山県岡山市北区津島中3丁目1番1号
TEL 086-251-8214
FAX 086-251-8263
E-mail: en 20704@s.okayama-u.ac.jp

Collège de France について

Collège de France (コレージュ・ド・フランス)は、1530年にフランソワ1世が創設した「王立教授団」に由来します。パリにはソルボンヌ大学を第1大学として10校程のパリ大学その他、École Polytechniqueなどの高等教育機関も存在しますが、Collège de France(写真1)はより自由な研究機関として設立された経緯を持ちます。

パリ市は直径10kmほどの城郭都市であり、昔の城壁は現在では自動車道や路面電車の走る道路に変わっていますが、ちょうど山手線の環状線の内側ほどの面積です。Collège de



写真1 Collège de France のロビー



写真2 パンテオン

France はパリ南部、セーヌ川左岸に位置し、著名な観光名所であるシテ島のノートルダム寺院からは徒歩10分ほど、また、ノーベル賞を受賞した物理学者・化学者キュリー夫妻などフランスの偉人たちが眠るパンテオン（写真2）からは徒歩5分ほどの所にあります。

パリ市内は、ご存知の方も多いでしょうが、フランス国有鉄道（SNCF）の運営する近郊高速鉄道（RER）やパリ市交通公団（RATP）の運営する地下鉄METROのネットワークが非常に発達していて、Collège de France へのアクセスもRERのB線Luxembourg駅から徒歩10分、METROのCluny-La Sorbonne駅から徒歩5分という立地です。パリ市も日本と同様に通勤通学ラッシュ時の電車の混雑状況は凄まじい。しかし日本とは混雑する時間が異なり、朝は9時頃、夕方は6時ごろに最も混雑するようです。筆者らはLuxembourg駅から通学しましたが、ラッシュ時には駅周辺は学生でいっぱいでした。

学校周辺は「カルチェ・ラタン（Quartier Latin）」とよばれる学生街です。学校周辺の道沿いには文房具店、画具店、古書店、あるいはパリらしいカフェやレストランなどが数多く立ち並んでいて、通学路途中にあるカフェはコーヒーを飲みながら談笑する学生や、熱心にパソコンに向かう学生たちでいつも溢れていました。またフランスにおける日本の人気を示すような、「MANGA」「HARAJYUKU」などとい



写真3 リュクサンブル公園



写真4 歴史ある校門正面 校舎は改築中

った看板の掲げられた日本のサブカルチャー用品店、日本画や日本文学を取り扱う書店、日本の古美術店なども多々見かけられました。学校近傍にはリュクサンブル公園（写真3）というパリ市内最大の公園もあり、多くの人で賑わっています。家族連れや散歩をする人、ゆったりと読書をする人など、人それぞれ想い想いの時間を過ごしていました。

このような大変心地よい地域の一角にCollège de France があります。学校校舎は歴史を感じさせる佇まいで、外壁は昔の形を止めつつも美しく改装してあり、見事に周りの風景に溶け込んでいました。石造りの堅牢な門（写真4）をくぐり、その先へと歩を進めると、ドアのところで暗証番号の承認を求められます。私達の在籍する岡山大学は誰でも入れるようになっている建物も多いだけに、人の出入りに厳

重な印象を受けました。

研究室での日常

日本人のフランス人に対する一般的なイメージの1つとして、のんびりとしていて時間に寛容であり、おしゃべりが好きというものがあると思います。確かに平日の昼食に2時間かける人や、食後にコーヒー片手に何時間も話し込む人を多く見かけます。

しかし、LCMCPは違います。皆、朝9時すぎには学校へとやってくると、すぐに実験の準備やデスクワークを始めます。実験の準備に至っては場所取り合戦の様相です。LCMCPは大学職員40名、博士課程以上の学生60名ほどの大所帯で、とにかく人が引切り無しに動いています。食事でも学食や近所のファーストフード店で手短に済ませる。そのような印象です。

ただ、LCMCPの学生も多くはフランス人。おしゃべりは大好きです。実験の待ち時間などで暇ができると、とにかく喋ります。1度研究室主催のパーティにお招きいただき参加しましたが、老若男女、教職員、学生を問わずワイン片手に喋っていました。

研究室で驚いたことの1つに、学生が語学に非常に堪能であるという点です。研究室では当然のようにフランス語と英語が飛び交っています。何度か国際セミナーにも参加しましたが、ほとんどの学生が学術レベルの内容の会話をフランス語と英語のどちらでも行えます。筆者らの語学力では内容を理解するのに精一杯で、とても質問どころではなかったです。

休日

パリ滞在期間を利用して、「パンテオン (Panthéon : Panthéon de Paris)」を訪れてみました。

パンテオンはパリの5区に位置しています。幅110m、奥行き84mの十字型の平面に大ドームとコリント式の円柱を持つ、新古典主義



写真5 フーコーの振り子

の建築作品です。18世紀後半に、サン＝ジュスヴィエーヴ教会として建設され、その後に、政治・経済・文化など各分野でフランス国家に貢献したとされる国民的偉人が埋葬される霊廟となっています。

パンテオンには、エミール・ゾラ、ルソー、キュリー夫妻、ユゴー、マルロー、ヴォルテールなどが埋葬されています。また、フーコーが振り子の実験を行った場所でも知られており、この振り子(写真5)は今も天井からつるされて展示されています。

内部は全体に薄暗くて静かで、特に、地下の墓所は非常に静かでたくさんの棺が展示されていました。棺を他人に見せるという風習がない者にとっては、非常に興味深い所でした。私達はコレージュからの帰宅途中に訪れましたが、閉館間近にも関わらず多くの人でいっぱい、注目度の高さが感じられました。

最後に

今回の滞在を通じて、これまで築き上げてきた人と人との繋がりが土台となってはじめて、国際共同研究を行うことができると、非常に感じました。私達がパリ滞在の機会を得られたのは、指導教授である尾坂明義先生がBabonneau先生とChristian Bonhomme先生と深い親交を持っておられたからです。3人の先生方は、人間関係を非常に大切にされており、私達

もいずれは先生方のような研究者になりたいと強く思いました。

パリ滞在中、フランス語を全く理解できない筆者らが不自由なく生活できるように、Babonneau 先生、Bonhomme 先生をはじめ、LCMCP の研究室の先生方や大学院生の方々に、非常に暖かく接していただき、大変感動しました。皆様に心から感謝致します。

私達は今春の卒業後は、岡山大学大学院自然科学研究科に進学し、引き続きこれまでの研究に取り組んでいます。今回のパリ滞在で得られた素晴らしい経験を今後の研究や人生に活かしていきたいと思います。また、今回の滞在で得られたたくさんの方々との「繋がり」を大切に、これからも交流を続けていきたいと思っています。

日本の大学のガラス研究者地図



(2012 年 6 月の教授及び准教授を掲載：ニューガラスフォーラム作成)